

戦略3 世界をリードする最先端研究拠点の形成・強化

取組3 化学汚染・沿岸環境共同利用・共同研究拠点の形成と研究の推進

沿岸環境科学研究センターは、21世紀COEプログラムおよびグローバルCOE（重点支援拠点）に採択され、教育研究拠点として優れた実績を残してきました。この間、過去50年にわたって世界各地から収集した野生生物等の試料を長期冷凍保存するための「生物環境試料バンク」を附属施設として設置し、化学汚染分析をはじめ、生化学分析、遺伝子解析、安定同位体解析、形態分析等の幅広い分野で利用され、大きな成果を上げています。これらの提供実績と環境科学分野での幅広い研究実績により、平成28年度から共同利用・共同研究拠点（化学汚染・沿岸環境研究拠点（LaMer））に認定され、化学汚染や沿岸域の環境問題など、国内外における環境科学分野の推進・活性化を図ることとしています。

関連する中期計画

本学の強みである、地球深部ダイナミクス研究センター（GRC）、沿岸環境科学研究センター、プロテオサイエンスセンターにおける研究活動を充実させ、全国的な共同研究拠点となるための重点的な支援を行い、先端研究センターにおいては、第2期中期目標期間後半より共同研究数、研究分野で定評のあるハイインパクトジャーナルへの掲載数を10%以上増加させるとともに、プロテオ創薬研究分野では、研究推進の鍵となるヒトタンパク質の全数合成を達成する。